

Arcmanager (MSS5045) サンプルプログラムについて

2009年1月
富士通エレクトロニクス株式会社

Arcmanager(MSS5045)の DLL 製品（以下、本製品と表記します）のサンプルプログラムについて説明します。サンプルプログラムは当社の公式サイトより配布しています。ダウンロードして、ご利用願います。

1. 本製品の GUI を使用するサンプルプログラム
(Visual C++6.0 プロジェクト：Samples¥VC¥DlgUse ディレクトリに格納)
2. 本製品の GUI を使用しないダイアログボックスサンプルプログラム
(Visual C++6.0 プロジェクト：Samples¥VC¥UDlgUse ディレクトリに格納)
3. 本製品の GUI を使用しないコンソールサンプルプログラム
(Visual C++6.0 プロジェクト：Samples¥VC¥SConUse ディレクトリに格納)
4. Visual Basic 6.0 から本製品を使用するサンプルプログラム
(Visual Basic 6.0 プロジェクト：Samples¥VB ディレクトリに格納)

各サンプルの説明と作成方法について説明します。

1 本製品の GUI を使用するサンプルプログラム

本サンプルプログラムは、最も簡単なAmSs.dllの使用例です。プログラムは、引数の文字列をそのままAmSs.dllへ渡します。

1.1 作成方法

プログラムの作成は、Visual C++6.0 を使用します。作成手順は次の通りです。

- ・ Samples¥VC¥DlgUse ディレクトリをご使用の PC へコピーします。
- ・ Samples¥VC¥DlgUse ディレクトリへAmSs.dll、AmSsDb.dll、AmSs.lib、AmTypes.h、AmError.hをコピーします。
- ・ Samples¥VC¥DlgUse¥DlgUse.dsp を Visual Studio で開きます。
- ・ “ビルド(B)”メニューの“ビルド(B)”を選択します。

1.2 使用方法

作成したプログラム(DlgS.exe)とAmSs.dll、AmSsDb.dllを同じディレクトリに格納し、コマンドプロンプトから使用します。

例)c:¥autoexec.bat を書庫ファイル(c:¥arc.amg)に格納する。

```
prompt>DlgS /a c:¥arc.amg c:¥autoexec.bat
```

2 本製品の GUI を使用しないダイアログサンプルプログラム

本サンプルプログラムは、お客様が作成したGUIアプリケーションからAmSs.dllを使用する例です。AmSs.dllは、表示を行う代わりにGUIアプリケーションへWindowsメッセージを送信します。プログラムは、引数の文字列をそのままAmSs.dllへ渡します。

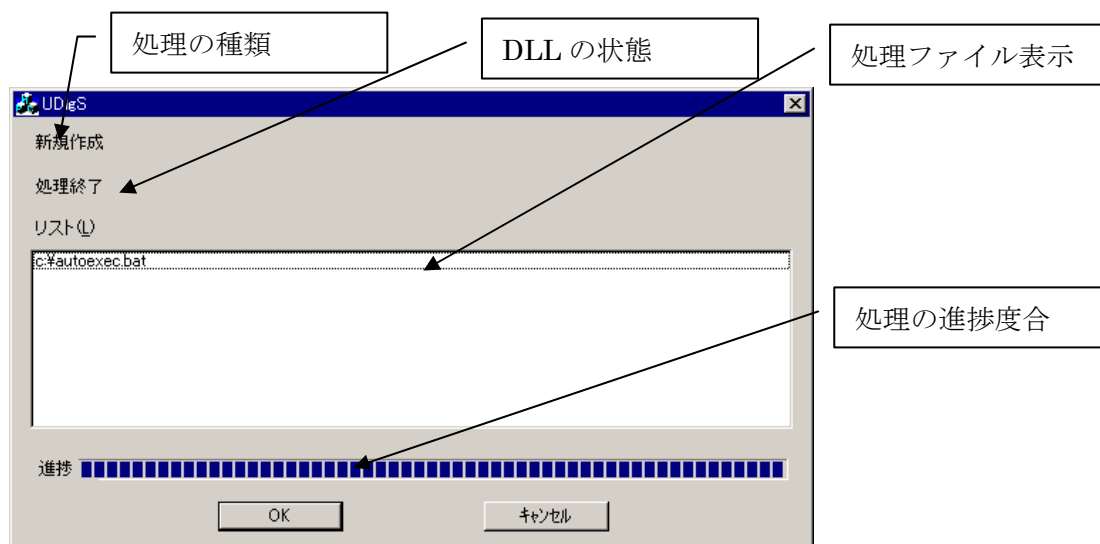
2.1 作成方法

プログラムの作成は、Visual C++6.0 を使用します。作成手順は次の通りです。

- Samples¥VC¥UDlgUse ディレクトリをご使用の PC へコピーします。
- Samples¥VC¥UDlgUseディレクトリへAmSs.dll、AmSsDb.dll、AmSs.lib、AmTypes.h、AmError.hをコピーします。
- Samples¥VC¥UDlgUse¥UDlgUse.dsp を Visual Studio で開きます。
“ビルド(B)”メニューの“ビルド(B)”を選択します。

2.2 サンプルプログラムの GUI について

サンプルプログラムは、AmSs.dllから送られたWindowsメッセージを処理して対応するGUIへ表示を行っています。



2.3 使用方法

作成したプログラム(UDlgS.exe)とAmSs.dll、AmSsDb.dllを同じディレクトリに格納し、コマンドプロンプトから使用します。

例)c:¥autoexec.bat を書庫ファイル(c:¥arc.amg)に格納する。
prompt>UDlgS /a c:¥arc.amg c:¥autoexec.bat

3 本製品の GUI を使用しないコンソールサンプルプログラム

本サンプルプログラムは、お客様が作成したコンソールアプリケーションからAmSs.dllを使用する例です。AmSs.dllは、表示を行う代わりにコンソールアプリケーションの関数を呼び出します。プログラムは、引数の文字列をそのままAmSs.dllへ渡します。

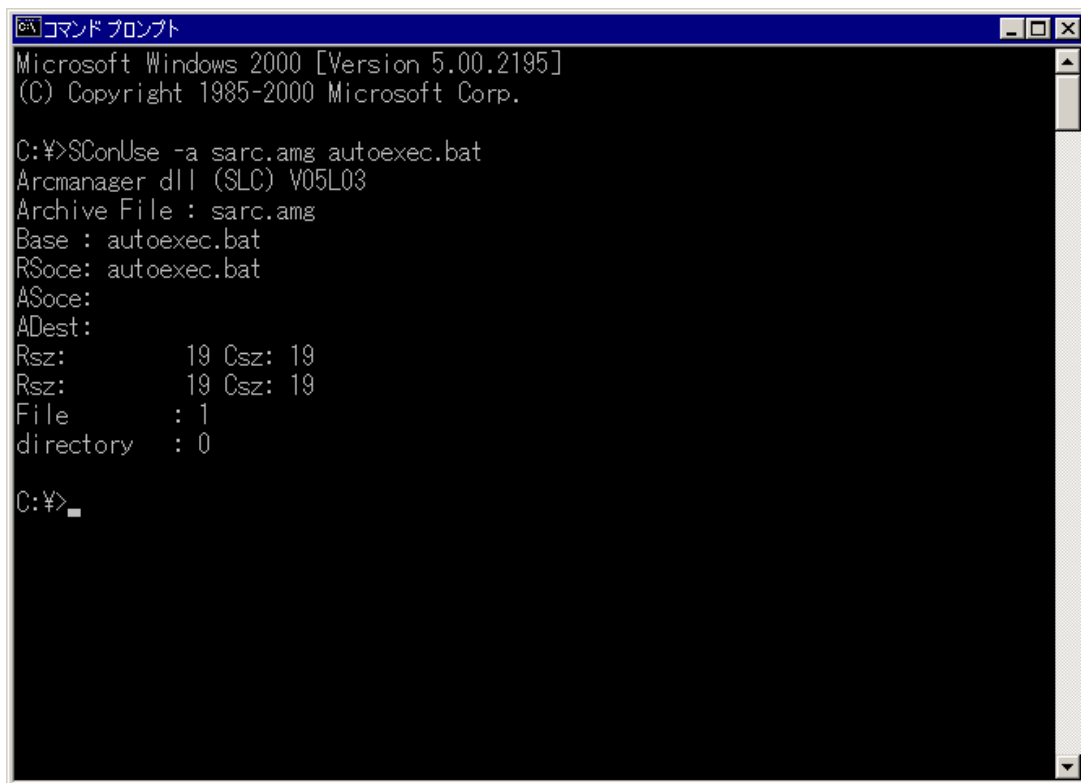
3.1 作成方法

プログラムの作成は、Visual C++6.0 を使用します。作成手順は次の通りです。

- Samples¥VC¥SConUse ディレクトリをご使用の PC へコピーします。
- Samples¥VC¥SConUseディレクトリへAmSs.dll、AmSsDb.dll、AmSs.lib、AmTypes.h、AmError.hをコピーします。
- Samples¥VC¥SConUse¥SConUse.dsp を Visual Studio で開きます。
“ビルド(B)”メニューの“ビルド(B)”を選択します。

3.2 サンプルプログラムのユーザインタフェースについて

サンプルプログラムは、AmSs.dllの関数呼び出しにより通知されたメッセージを処理して対応する表示を行っています。



```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:¥>SConUse -a sarc.amg autoexec.bat
Arcmanager dll (SLC) V05L03
Archive File : sarc.amg
Base : autoexec.bat
RSoce: autoexec.bat
ASoce:
ADest:
Rsz:      19 Csz: 19
Rsz:      19 Csz: 19
File      : 1
directory : 0

C:¥>_
```

3.3 使用方法

作成したプログラム(SConUse.exe)とAmSs.dll、AmSsDb.dllを同じディレクトリに格納し、コマンドプロンプトから使用します。

例)c:¥autoexec.bat を書庫ファイル(c:¥sarc.amg)に格納する。

prompt>SConUse /a c:¥sarc.amg c:¥autoexec.bat

4 Visual Basic 6.0 から本製品を使用するサンプルプログラム

本サンプルプログラムは、Visual Basic6.0 アプリケーションからAmSs.dllを使用する例です。サンプルプログラムは、ユーザの入力をコマンドライン文字列に変換してAmSs.dllへ渡します。

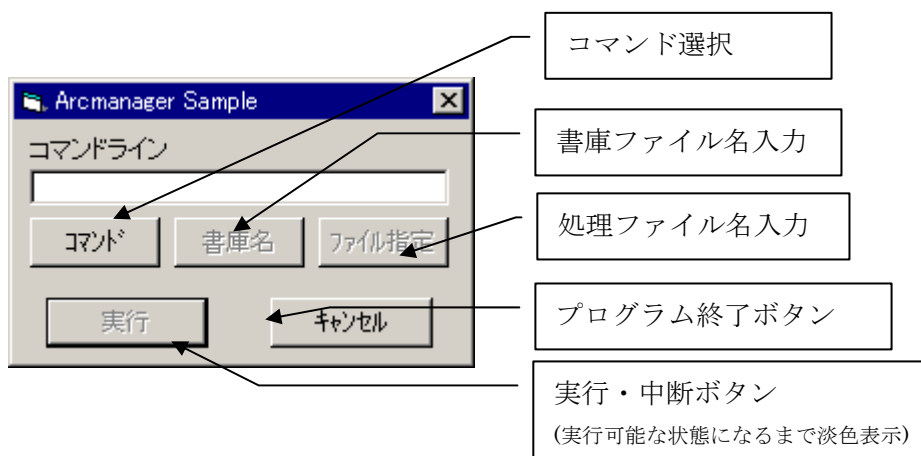
4.1 作成方法

プログラムの作成は、Visual Basic6.0 を使用します。作成手順は次の通りです。

- Samples¥VBディレクトリとAmSs.dll、AmSsDb.dllをご使用のPCへコピーします。
- AmTypes.Bas、AmError.BasをSamples¥VBディレクトリへコピーします。
- Samples¥VB¥VBUse.vbp を Visual Basic6.0 で開きます。
- “ファイル(F)”メニューの“VBUse.EXEの作成(K)”を選択します。

4.2 サンプルプログラムの GUI について

サンプルプログラムは、各ボタンで選択した文字列をコマンドラインに表示し、そのコマンドラインの文字列をAmSs.dllへ渡します。



4.3 使用方法

作成したプログラム(VBUse.exe)とAmSs.dll、AmSsDb.dllを同じディレクトリに格納しVBUse.exeを起動します。

免責事項

サンプルプログラムのご使用により万一お客様に損害が生じたとしても、当社はその損害について一切の責任を負いません。また、サンプルプログラムに不備があった場合でも当社は修正およびサポートの義務を負わないものとします。

以上